

環境報告書

2023年度



SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT

 株式会社 **サントリー**

◆ ごあいさつ ◆

私ども、株式会社サンコーは、1963年創業以来、世の中の変化に応じ、高難度部品加工への挑戦を重ね活躍のフィールドを広げて参りました。そして、お客様が求めるものづくりを通して信頼関係を築き、必要性を認められる存在になってきました。これからも、製造業を通して、世の中に貢献出来る企業であり続けたいと考えています。

さて、昨今の環境問題に目を向けると深刻さが増してきております。例えば、地球温暖化により、海面の水位が上昇し海拔の低い土地が水没してしまう恐れや、集中豪雨による河川の決壊などで、水害が多発しています。全世界的に持続可能な地球環境の保全への対応が求められています。このような中、当社では、ISO14001を2004年に全工場で認証取得し、環境負荷を低減させたものづくりを推進しております。本システムに基づく環境活動サイクルを有効に活用することで、環境負荷低減をはじめとする環境活動は、着実に成果が出てきていると考えております。

本報告書は、当社の環境活動への取り組みについて主要な内容をまとめたものであり、ご高覧いただき当社の事業活動にご理解を賜れば幸いです。



代表取締役 竹村 潔

◆ 会社概要 ◆

- 会社名 株式会社サンコー
- 代表者 代表取締役社長 竹村 潔
- 事業内容 自動車関連製品、住宅設備関連製品、事務機関連製品、デジタル家電関連製品に関するプレス製品、メカトロ製品及びプラスチック製品の製造販売
- 事業所 本社／〒399-0782 長野県塩尻市広丘野村959番地
工場／堀金工場、三田工場、福岡耳納工場
- 株式上場 東京証券取引所スタンダード市場（証券コード番号：6964）
- 従業員数 313名

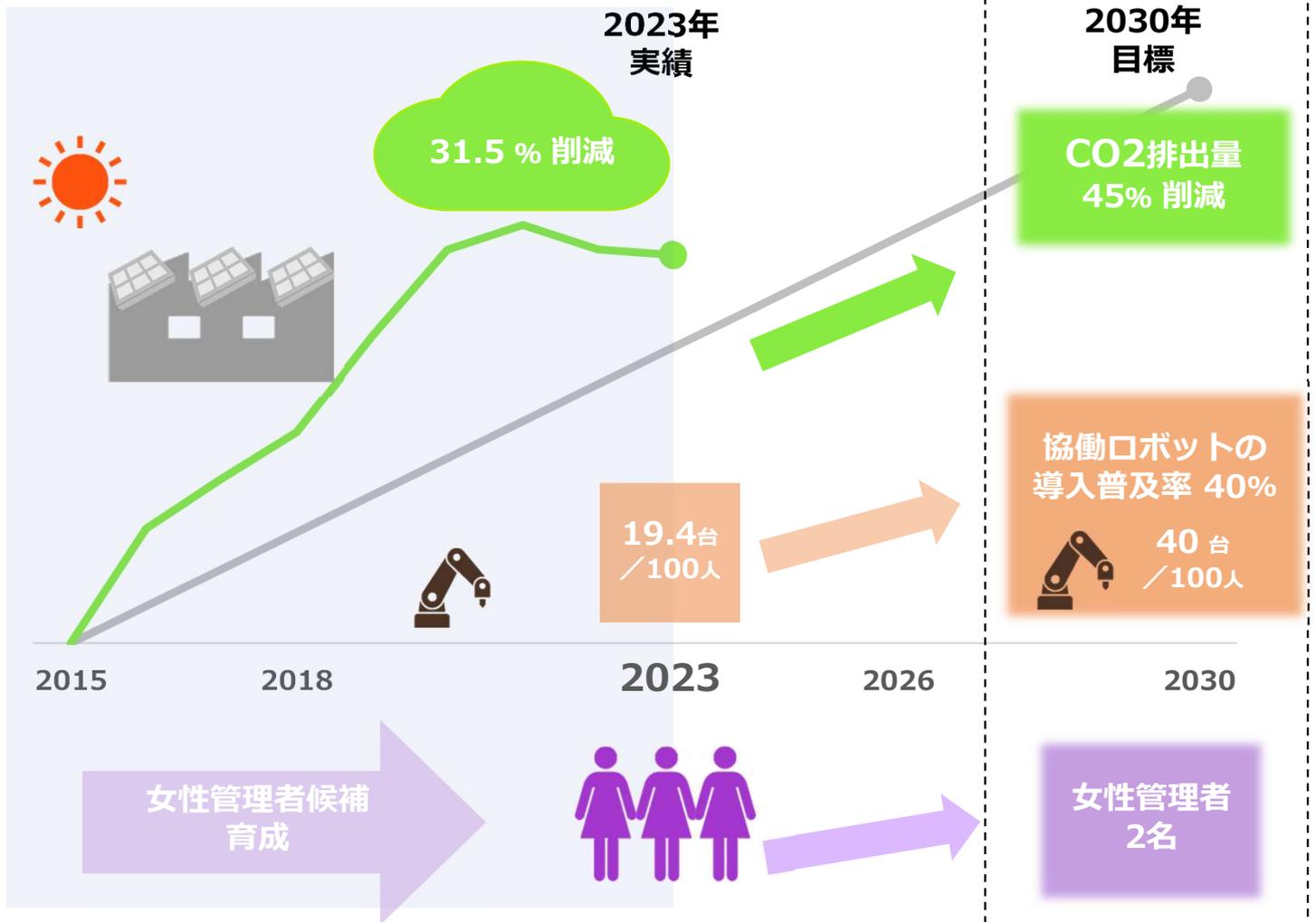


◆ 2030年に向けたSDGs達成に向けた取り組み ◆

サンコーは、持続可能な地球環境の保全に貢献する為、SDGs達成に向けた取組を強化させて参ります。

重点的な取組み

2030年に向けた指標



事業活動で排出されるCO2排出量の削減

2015年を基準年とし45%削減



EV車、HEV車の普及に向けて車載電気部品の低コスト化技術の向上

高圧・制御・電装関連の生産量 2020年度比30%拡大

協働ロボットの導入普及率 2030年までに40% (40台/100人) へ

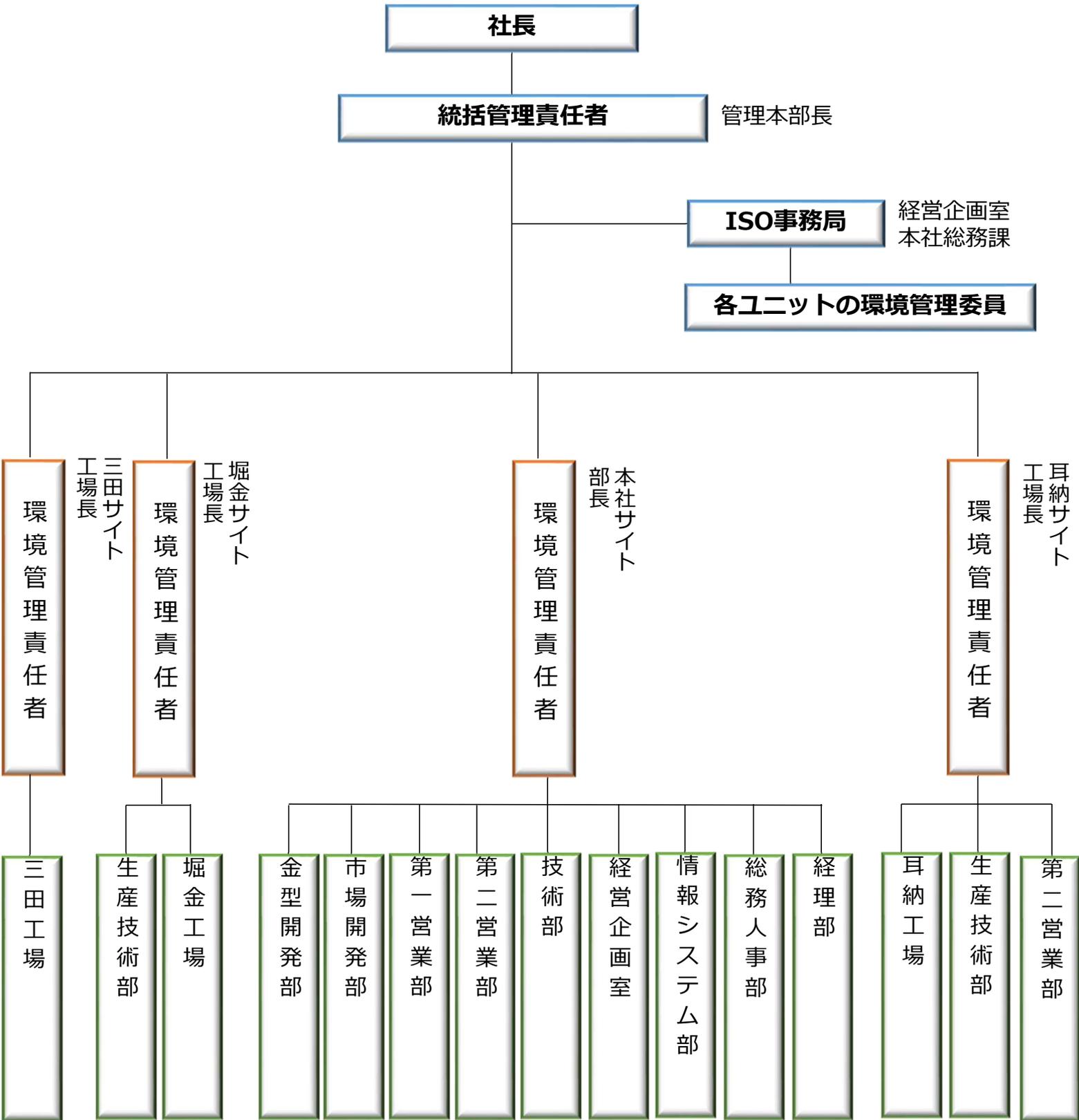


女性社員の登用推進と幅広い職場への配置

管理者2名の育成 製造部門での女性社員活用

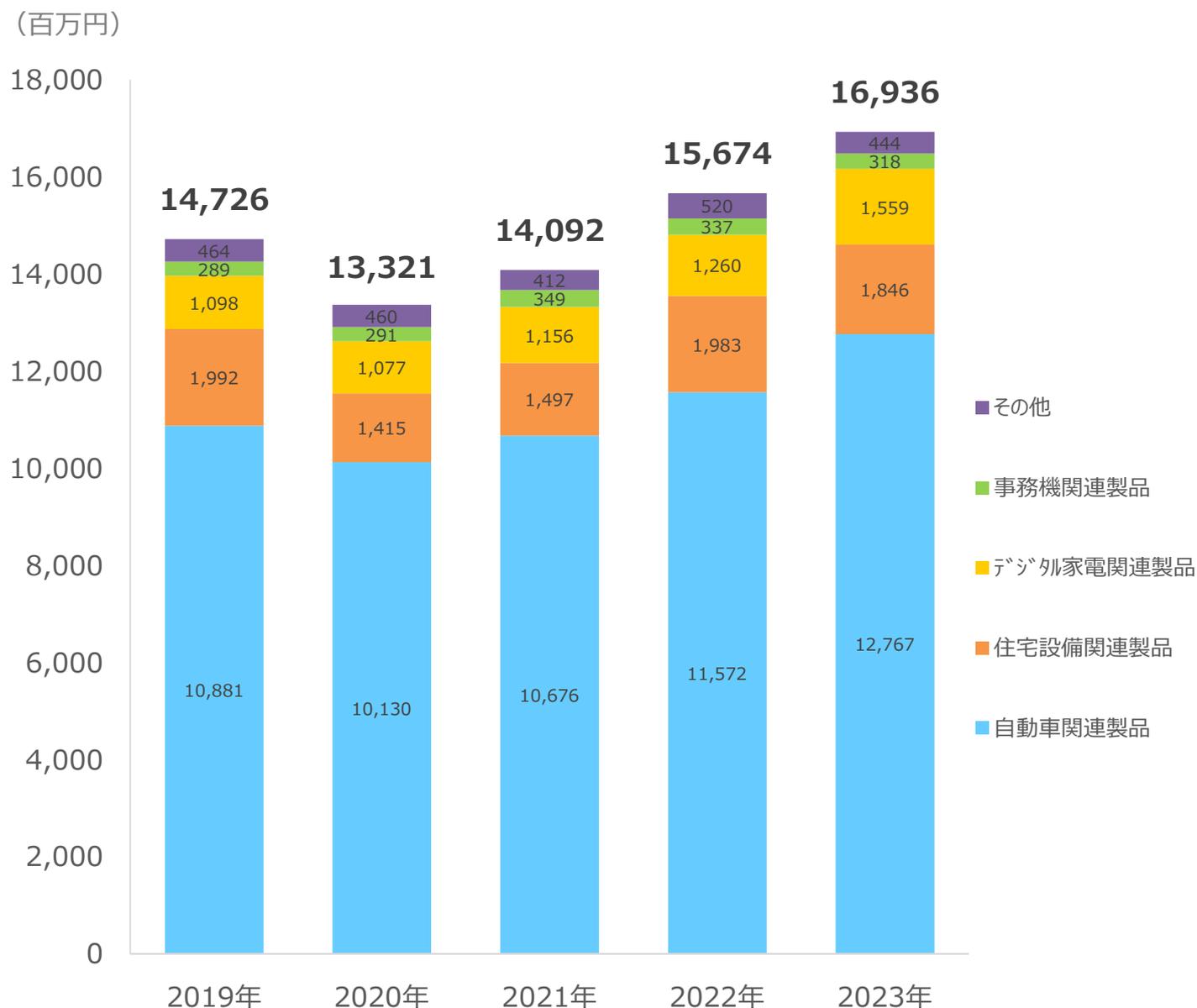


1.環境推進体制



2.売上高推移（連結）

当期の売上高は、169億3千6百万円（前期比8.0%増）となりました。主力の自動車関連製品の受注が継続して増加傾向を維持しております。



3.主要設備

プレス製品量産設備



プラスチック製品量産設備



金型製造設備



ロボット



4.主要製品

プレス製品



プラスチック製品



メカトロ製品



5.環境マネジメントシステム

〈環境スローガン〉

環境負荷を低減し、地球にやさしいもの造りを目指そう。

〈基本理念〉

私たちは、地球環境保全を企業の使命の一つと自覚し、地域社会と調和を保ちながら、「環境にやさしいものづくり」に対して常に努力し、「持続可能な発展」の国際理念のもと、循環型社会の構築に貢献していきます。

〈環境方針〉

当社は、基本理念に基づき次の方針を定め、地球にやさしい企業を目指します。

1. 次の3項目を中心に、汚染の防止に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
 - ① 廃棄物の削減とリサイクル
 - ② CO2排出削減、省資源、省エネルギーを考慮した生産
 - ③ 顧客要求の環境関連物質の削減
2. 環境関連法規制及び、その他顧客の要求事項を遵守することにより環境保全に努めます。
3. 全社員及び協力会社は、環境対応の重要性を十分認識し、部門毎に目標設定し活動します。
4. 取引先・協力会社・地域社会とのコミュニケーション・連帯を図り、環境マネジメントシステムを効果的に推進するため、教育・啓発に努めます。
5. 環境方針はホームページ、会社案内等に掲載することにより、利害関係者及び一般の人が入手できるよう必要な情報の共有に努めます。



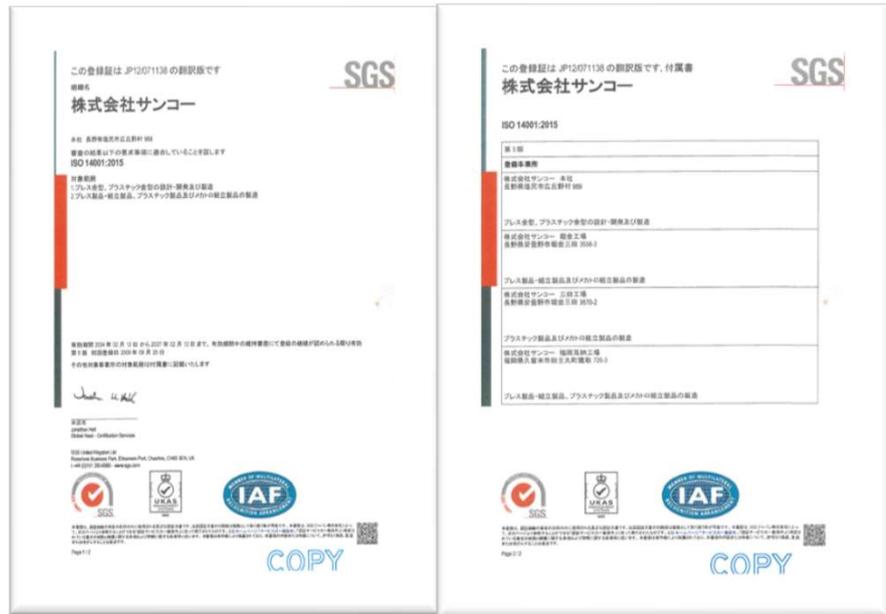
6. ISO14001認証取得

当社では、環境国際規格ISO14001を認証取得しております。

初回登録日 2000年3月23日

有効期限 2027年2月12日

対象範囲
1.プレス金型、プラスチック金型の設計・開発及び製造
2.プレス製品・組立製品、プラスチック製品及びメカトロ組立製品の製造



【外部監査】

2023年12月にSGSジャパン株式会社より、ISO14001の更新審査を受審いたしました。対象工場にて審査が実施され、環境に関わる不適合はございませんでした。その結果、「ISO14001の要求事項に適合し、運用され、継続的に改善されている」との評価をいただきました。

【内部監査】

監査の公正・客観性を確保するため、統合内部監査員として資格認定された監査員で監査チームを編成し、内部監査とフォローアップ監査を実施しております。監査結果を経営陣に報告するとともに、被監査部署は指摘事項の是正とシステムの見直しを行っております。

2023年度も全部署で統合内部監査を行い、システム運用に関する重大な指摘事項のないことを確認しております。軽微な指摘事項については各サイト共に速やかな是正処置を行いました。

◆環境関連物質の不使用と削減◆

環境関連物質の使用禁止または削減の管理に関し、電機業界中心のRoHS指令（使用禁止10物質：カドミウム・鉛・水銀・六価クロム・ポリ臭化ジフェニルエーテル・ポリ臭化ビフェニル・フタル酸エステル類4物質）及び自動車業界中心のELV指令（使用禁止4物質：カドミウム・鉛・水銀・六価クロム）に則り、お客様の要請に対応すべく、すべての部品を対象に、新規納入時、または変更納入時に必要なデータを提出しております。それらの物質削減の為の代替案をお客様にご提案すると共に、積極的に不使用に取り組んでおります。また、「REACH」はEUで市場に流通している全ての工業化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規制であり、調査依頼に対して適切に対応しています。

◆ 目標達成度評価



目 標	サイト	60期 (2022年度)			61期 (2023年度)			前期比	対前期比 目標評価	2015年比	対2015年比 目標評価
		内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)	内製生産高 (百万円)	CO2排出量 換算値 (t-CO2)	原単位 (t/百万円)				
2023年目標： 2015年比24%削減 (原単位採用) (前期比3%減以上) <マイナスが良い>	本 社	674	748.50	1.111	729	797.43	1.093	-1.59%	△	-19.79%	×
	堀金工場	1,623	1,698.79	1.047	1,918	1,800.23	0.939	-10.34%	◎	-35.02%	◎
	三田工場	961	1,821.12	1.894	989	2,214.57	2.240	18.24%	×	-21.02%	×
	耳納工場	473	827.53	1.749	453	807.64	1.781	1.85%	×	-57.97%	◎
	合 計	3,731	5,095.94	1.366	4,089	5,619.87	1.374	0.62%	×	-31.53%	◎
目 標	サイト	60期 (2022年度)			61期 (2023年度)			前期比	対前期比 目標評価	2018年比	対2018年比 目標評価
内製生産高 (百万円)	排出量 (t)	原単位 (t/百万円)	内製生産高 (百万円)	排出量 (t)	原単位 (t/百万円)						
2023年目標： 2018年比5%増以内 (原単位採用) (前期比1%増以内) <マイナスが良い> ※マニフェストを 発行するもの	本 社	674	15.08	0.0224	729	18.13	0.0249	11.05%	×	23.10%	×
	堀金工場	1,623	85.33	0.0526	1,918	73.67	0.0384	-26.95%	◎	-1.98%	◎
	三田工場	961	196.32	0.2042	989	161.50	0.1633	-20.01%	◎	3.51%	◎
	耳納工場	473	23.87	0.0505	453	22.54	0.0497	-1.46%	◎	26.31%	×
	合 計	3,731	320.59	0.0859	4,089	275.84	0.0675	-7.70%	◎	13.03%	×

◆ 基準年 (2015年) からの推移(CO2)



◆ 基準年 (2018年) からの推移(廃棄物)

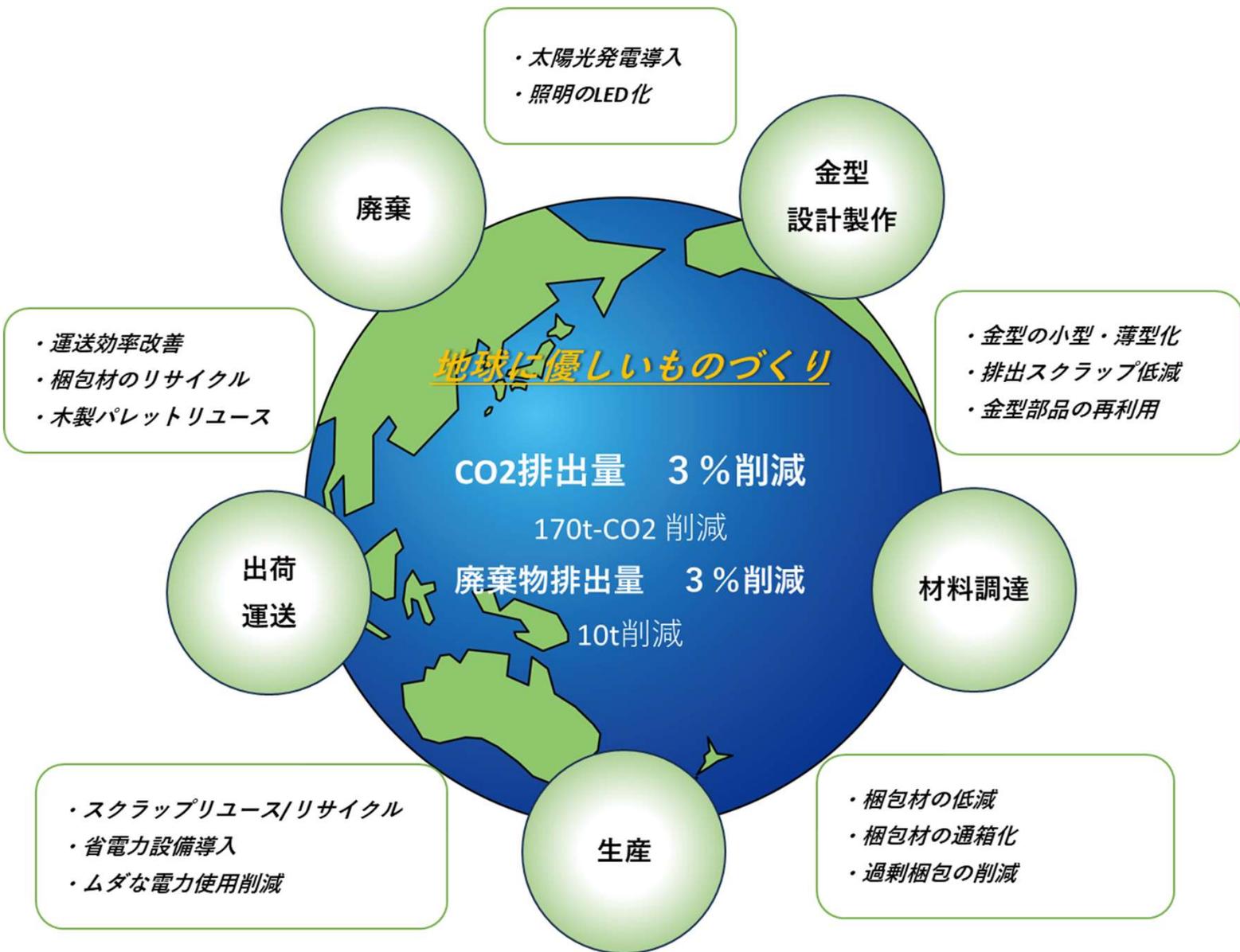


～前年度の結果～

CO2排出は、使用した電気、燃料の使用量からCO2排出量を算出し、2015年度を基準年とした内製生産高原単位では2022-23年度に3工場で導入した太陽光発電の効果もあり31.5%削減となっております。これは2023年度目標に対し8.5%先行して進んでいる状況です。電力使用量は全社で前期比約80万kwhの削減しているものの、原単位計算では電力CO2排出係数の増加の影響を上回ることができず、数年ほぼ横ばいの状況となっております。

産業廃棄物の排出は、2018年度を基準年とした内製生産高原単位で排出量を前年比1%増以内に抑えるよう削減活動を行っておりますが、2019年度より中国の廃棄プラスチック類輸入全面禁止の影響を受け、目標に対し排出量が増加した状況からリサイクル・リユースの強化などにより徐々に排出量を削減し2018年レベルに近づいてきています。現状リサイクル率が約60%～90%、リユース率がプラスチック製品を生産している工場で数%程度と認識しておりますが、社外でのリサイクル率など含め正確な数字の把握を行い開示していきます。

◆ 年度目標と生産工程での主な施策



～地球に優しいものづくりへの取組み～

当社の基本理念である「地球に優しいものづくり」に対し、太陽光発電、照明のLED化などの全社的な設備投資を始め、各工場の全生産工程で、ムダを省くことによる生産性の向上、金型構造改善による省資源、省電力設備への設備投資などの施策により全社CO2排出量前年比3%の削減を目標に活動を進めております。

産業廃棄物の排出についても、金型、梱包資材、生産材料などのリサイクル・リユース率向上のために、金型部品のリユース、金型による加工技術の改善、梱包箱の通箱化、生産工程からの排出物の分別回収強化を進め、全社廃棄物の排出量前年比3%削減を目指して活動しております。

◆ 2023年度の各工場の重点実施内容

本社



2023年度目標 内製生産高 原単位採用	2023年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比24%以上削減	729	797.43	1.0934	-1.59%	△
廃棄物削減 2018年比5%増以内	729	18.13	0.0249	11.05%	×

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比1%減
前期比3%減

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- 前年度の活動でCO2排出削減については、本社のLED化が完了し、エアコンや老朽生産設備の省電力を進めることで年間使用電力量は前年比176,136kwhの削減でCO2排出量は原単位で1.59%削減となりました。
- 廃棄物削減については、金型用スプリングの再利用、金型製作における切カス再利用の活動に取り組み、スプリング再利用目標達成率88%、切カス再利用目標達成率101%の結果となりましたが、古く未使用となっていた治工具等の廃棄をしたため産廃の排出量が約3t増加となり、原単位でも前年比11%増加となってしまいました。目標達成に向けて生産効率を高め内製生産高を上げるとともにパーツ再利用の活動をさらに拡大したリユース活動を強化していきます。

◀本年度の重点実施内容▶

- 本年度も老朽化した生産設備の更新を3台計画し、作業効率の向上と電力使用量の削減を図りCO2排出量の削減を進めます。
- 金型部品のスプリング、切カスに加え、イレコの再利用による廃棄量削減を進めます。
- 金型プレートの厚さを薄くすることにより、金型材料の削減、放電加工時間短縮による効率向上、使用するワイヤー量の削減と電力量の削減を進めます。

堀金工場



2023年度目標 内製生産高 原単位採用	2023年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比24%以上削減	1918	1800.23	0.9387	-10.34%	◎
廃棄物削減 2018年比5%増以内	1918	73.67	0.0384	-26.95%	◎

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比4.5%減
前期比4%減

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- 2023.7月～太陽光発電を導入したことにより、合計462,839kwh（9ヶ月実績）の発電で工場使用電力量の約13%程度の使用となり、自然由来エネルギー使用量換算でCO2排出量約212tを削減することが出来たことと、チラー等の老朽設備更新により、電力使用量が約22,000kwh削減され、CO2排出量原単位で約10%の削減となりました。
- 産業廃棄物は、混合廃棄物の分別回収の意識を高め、資源として回収してもらうことで約3.6 t削減。また木製パレットを材料業者との交渉を行い返却再利用してもらうことで木くず約8.4tの削減の効果がでて、全体として廃棄量が前年度比約12 t削減となり原単位で約27%の削減につなげることができました。

◀本年度の重点実施内容▶

- 太陽光発電は2024年度は通期の稼働となり、前年度より年間約180,000kwh多くの発電によりCO2排出量約83tの削減を見込んでいます。
- 産廃のうち約50%のウエイトを占める木くず・木パレットの削減を更に進めます。主たる使用目的は非鉄材料の梱包材の為、材料商社と協力して再利用を促進させて、木くず・木パレットの廃棄量を削減します。

◆ 2023年度の各工場の重点実施内容

三田工場



2023年度目標 内製生産高 原単位採用	2023年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比24%以上削減	989	2214.57	2.2395	18.24%	×
廃棄物削減 2018年比5%増以内	989	161.50	0.1633	-20.01%	◎

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比3.3%減
前期比4%減

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- 前年度のCO2排出削減活動については、太陽光発電が2023年6月に稼働し、年間340,801kwhの発電・消費されたことで、CO2排出は約156 t削減されました。その他、老朽設備の更新により約11t、蛍光灯のLED化により約3t、それぞれ計画通り削減できました。しかしCO2排出係数が約18%上がったことと、受注増加による成形機等の増設や稼働時間増加などにより電力使用量が約131,000kwh(約3%)増加しました。原単位計算の元になる内製生産高も約3%伸びたものの、電力会社の排出係数の上昇分(約18%)を削減するには至らず、原単位で約18%の増となってしまいました。
- 廃棄物削減については、分別廃棄によるリサイクル業者への引取強化と不良廃棄削減活動により、前年比約35tの排出量の削減、原単位で20%の削減となりました。

《本年度の重点実施内容》

- CO2排出削減については、まず、省電力化につながる老朽化設備の更新、金型設計変更による材料節約、リサイクル・リユース比率の向上他、物流改善、廃棄物削減などにより、合計70tのCO2排出削減を目標とし、地球に優しいモノづくりを目指していきます。

耳納工場



2023年度目標 内製生産高 原単位採用	2023年度実績				対前期比 目標評価
	内製生産高 (百万円)	CO2排出量		原単位 (t/百万円)	
		換算値 (t-CO2)	廃棄物排出量(t)		
CO2排出削減 2015年比24%以上削減	453	807.64	1.7814	1.85%	×
廃棄物削減 2018年比5%増以内	453	22.54	0.0497	-1.46%	◎

2024年度目標 内製生産高 原単位採用
前期比1%減
前期比3%減

【前年度活動の振り返りと本年度活動について】

- 2022年度中に稼働を開始した太陽光発電施設が、年間フルに稼働しほぼ計画通りに年間372,692kwhの発電使用(2022年比でプラス228,171kwh)がされ、年間約108 tのCO2排出削減効果があります。生産に使用する電力削減のため、夜間の作業を減らすことで夜間の電力使用量を約28%低減させ、工場の総電力使用量は前年比約37.8万kw削減できましたが、内製生産高が伸ばせなかったこともあり、CO2排出係数増加を吸収できず、原単位指数で1.85%の増加となってしまいました。
- 廃棄物に対しては、廃プラの分別を強化してリサイクル業者への引取を増やすことにより、廃プラの廃棄量を10.85tから8.04tへ約25%削減することができ、原単位で約1.5%削減ができています。

《本年度の重点実施内容》

- 老朽化したエアコンの更新を計画しており、年間約4,700kwhの電気使用量の削減を見込んでいます。
- 廃棄物削減についてはリサイクルの強化として、新しく量産が開始される成形品の試作品の産廃廃棄を抑えることを考えており、リサイクル業者へ引取り交渉を進め、分別廃棄の徹底により廃棄物の低減に取り組みます。

9.環境計画内容及びエネルギー使用合理化

省エネ法に基づき、エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者を選任し定期報告書を提出しております。
中長期計画書に基づいた計画は以下の通りです。

内容	該当する工場	実施時期
1.工場設備の省エネ対応 ◆コンプレッサのエア漏れ対応による効率化促進	全社対象	2013年～継続中
2.蛍光灯のLED化 ・2022年 堀金工場 済 ・2021年 三田工場 済 ・2021年 耳納工場 済 ・2023年 本社 済	 全社対象	2018年～2026年
3.空調設備交換による削減 ◆空調設備の約3割をインバータタイプに交換 ・2022年 堀金工場 済 ・2022年 三田工場 済 ・2022年 本社 済 ・2022年 耳納工場 済	 全社対象	2022年～2023年
4.全社的な削減対応 ◆エアコンフィルター及び室外機の定期的清掃の実施 ◆夏季・冬季の温度設定の徹底（測定室・ワイヤーカット室は除く）	全社対象	2013年～継続中
5.太陽光発電システムの導入 ・2022年 耳納工場 済 ・2023年 堀金工場 済 ・2023年 三田工場 済	 全社対象	2022年～2025年
6.水銀灯の省エネ照明への切替	 全社対象	2019年完了

10.環境保全活動

太陽光発電

再生可能エネルギーの利用に力をいれて活動しています。



耳納工場
2022年より稼働中



三田工場
2023年より
稼働開始



堀金工場
2023年より
稼働開始

11.地域社会貢献活動、安心安全な工場への取り組み

地域の清掃活動・緑地の増加に力をいれて活動しています。
従業員一丸となって、取り組みます！

会社周辺の清掃活動・ 緑地の維持管理



11.地域社会貢献活動、安心安全な工場への取り組み

防災訓練の実施

万一の自然災害に備えて各サイト毎、防災訓練を年1回実施し、合わせて灯油・オイル等の漏洩に備え、緊急事態対応の訓練も実施しています。



附則：環境測定の結果

◆ 騒音規制法 (単位：dB)

サイト	規制値		実施基準と実施状況	結果		備考
本社工場	6時～8時	65	1回/年 2024年3月19日 実施	54	適正	第3種区域：住居の用に合わせて商業・工業等の用に供されている区域
	8時～18時	65				
	18時～21時	65				
	21時～6時	65				
堀金工場	8時～18時	70	2023年9月27日 実施	64	適正	その他の区域：工業地域
	6時～8時	-				
耳納工場	8時～19時	65	1回/年 2023年11月9日 実施	55	適正	3種区域
	19時～23時	65				
	23時～6時	55				
三田工場	対象外					その他の区域

◆ 振動規制法 (単位：dB)

サイト	規制値		実施基準と実施状況	結果		備考
本社工場	7時～19時	70	1回/4年 2022年4月6日実施 (次回は2026年度に 実施予定)	36	適正	第2種区域：住居・商業・工業等の用に供されている区域で主として工業等の用に供される区域
	19時～7時	65				
堀金工場	7時～19時	-	1回/4年 2023年9月27日実施 (次回は2027年度に 実施予定)	43	適正	指定なし (自主検査)
	19時～7時	-				
耳納工場	8時～19時	65	1回/4年 2023年11月6日実施 (次回は2027年度に 実施予定)	44	適正	第2種区域
	19時～8時	60				
三田工場	対象外					指定なし

◆ 浄化槽法

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
耳納工場	指定検査機関の検査	1回/年 2024年1月15日実施	適正
本社工場	対象外 (浄化槽なし)		
三田工場			
堀金工場			

◆ 消防法

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
堀金工場	地下タンク貯蔵所点検	1回/年 2023年9月28日実施	適正
本社工場	対象外 (タンク無し)		
三田工場			
耳納工場			

◆ PRTR法 (化学物質排出移動量の届出)

サイト	実施基準と実施状況	報告先の官公庁
本社工場	1回/年 (6/30迄) 2024年6月受理	経済産業省製造産業局 化学物質管理課
堀金工場	1回/年 (6/30迄) 2024年6月受理	
三田工場	対象外	
耳納工場		

◆ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (産業廃棄物管理票交付状況の報告)

サイト	実施基準と実施状況	報告先の官公庁
本社工場	1回/年 (6/30迄) 2024年6月受理	松本地方事務所 環境課
堀金工場	1回/年 (6/30迄) 2024年6月受理	
三田工場	1回/年 (6/30迄) 2024年6月受理	
耳納工場	1回/年 (6/30迄) 2024年6月受理	久留米市役所 環境部

◆ 下水道法（下水） （単位：mg/ℓ）

◆ 水質汚濁防止法（雨水） （単位：mg/ℓ）

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果		
本社工場	ジクロロメタン含有量 0.2	1回/年 2023年6月28日採取	0.003	適正	
	アンモニア性窒素 -		69		
	亜硝酸性窒素 -		0.14		
	硝酸性窒素 -		0.55		
	アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380		70		
	水素イオン濃度 5~9		8.5		
	生物化学的酸素要求量 (BOD) 600		160		
	浮遊物質 (SS) 600		82		
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5		1.4		
	ジクロロメタン含有量 0.2		0.005		適正
	アンモニア性窒素 -		150		
亜硝酸性窒素 -	0.02				
硝酸性窒素 -	0.05				
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380	61				
水素イオン濃度 5~9	7.0				
生物化学的酸素要求量 (BOD) 600	150				
浮遊物質 (SS) 600	450				
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5	1.8				
アンモニア性窒素 -	27	適正			
亜硝酸性窒素 -	0.05				
硝酸性窒素 -	2.3				
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380	13				
水素イオン濃度 5~9	7.8				
生物化学的酸素要求量 (BOD) 600	480				
浮遊物質 (SS) 600	26				
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5	2.5				
耳納工場	対象外				

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果	
本社工場	ノルマルヘキサン抽出物質 含有量 5	1回/年 2024年2月21日 採取	1.3	適正
	ジクロロメタン含有量 0.2		0.003	
堀金工場	ノルマルヘキサン抽出物質 含有量 5	1回/年 2023年4月26日 採取	1.0	適正
	ジクロロメタン含有量 0.2		0.016	
耳納工場	対象外			
三田工場				

◆ その他、環境法規制

法規制名	適用対象
労働安全衛生法	MSDSの掲示など名称等表示物質、有機溶剤、特定化学物質、ボイラー、フォークリフト
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（改正省エネ法）	事業活動におけるエネルギー（電気、燃料等）使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換
環境基本法、環境情報提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律	事業活動全般、環境報告書の発行
地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）	温室効果ガスの排出量削減
特定工場における公害防止組織の設備に関する法律	管理者選任
フロンガス排出抑制法	パッケージエアコン冷却機



2024年7月発行

当社は2008年から「環境報告書」を作成しております。
環境スローガン『環境負荷を低減し地球にやさしいもの造りを目指そう』を
合言葉に、ISO14001の環境活動の活動データに基づき作成しております。

- ・対象範囲
本社サイト、堀金工場サイト、三田工場サイト、福岡耳納工場サイト
- ・対象期間
2023年4月1日～2024年3月31日
- ・参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン（2018年度版）」

発行部署/お問い合わせ先

総務人事部 総務課

〒399-0782

長野県塩尻市広丘野村959番地

TEL : 0263-52-2918 FAX : 0263-51-1667

URL : <https://www.sko.co.jp>



株式会社 **サンコー**